

令和6年度 小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会（第2回）における助言事項への対応

1. 世界遺産委員会決議事項に関する助言事項

No.	助言事項	対応状況及び対応方針
要請事項 a：外来種対策について		
①	遺産登録時からの課題である新たな侵略的外来種の侵入・拡散防止について、早期発見及び早急な防除のための体制構築に向け、スピード感を持って取り組むこと。	新たな外来種の侵入・拡大への対策について、議事（2）で議論。
②	「兄島外来ネズミ類対策検討会」において「小笠原諸島における中長期的な外来ネズミ類駆除実施計画」の更新や、根絶に向けた新たな技術の確立について検討すること。	今年度の「兄島外来ネズミ類対策検討会」において、外来ネズミ対策に係る各検討会で実施している対策を踏まえ小笠原諸島全体の外来ネズミ対策について取りまとめを行う。 根絶に向けた新たな技術の確立について、環境省の競争的研究資金（環境研究総合推進費）において小笠原地域における外来ネズミ類の根絶手法の開発に係る研究プロジェクトが新たに採択された。本研究の結果等を踏まえながら、「兄島外来ネズミ類対策検討会」において検討を進める。
奨励事項 b：気候変動モニタリング		
③	取得した気象データの活用方法や、影響を受ける側（希少昆虫類等）のモニタリングの実施について検討すること。	取得した気象データの活用方法等について、御助言いただけるようであれば議事（3）で議論。 影響を受ける側（希少昆虫類等）のモニタリングの実施について、引き続き兄島における昆虫の生息状況調査を実施するほか、父島属島における昆虫相の基礎調査を新たに実施。

2. その他

No.	助言事項	対応状況及び対応方針
④	オガサワラシジミの状況について「オガサワラシジミ保護増殖検討会」におけるレビューの実施を検討すること。	検討会委員へのヒアリング等により、今後の進め方を検討していくこととしたい。
⑤	オガサワラハンミョウの保全のための取組や研究を引き続き進めること。	オガサワラハンミョウのモニタリング調査や生息環境改善等を継続するとともに、域外保全については複数箇所で飼育し、野生復帰を行っている。今後も保全対策の継続、充実を目指す。
⑥	外来リクヒモムシの影響の大きさと未侵入の島や属島への侵入防止策の必要性について、関係者間で認識を共有すること。	外来リクヒモムシの拡散防止と分布情報収集のお願いをするチラシ（※）を作成。関係機関に周知を行った。 ※参考資料6を参照。
⑦	光害について街灯等の設置時の配慮が重要であることから、公共事業において「 小笠原諸島の公共事業における環境配慮マニュアル 」（東京都）や「 光害対策ガイドライン 」（環境省）東京都の環境配慮ガイドラインを参考とする等の取組を進めること。	光害について、公共事業において「小笠原諸島の公共事業における環境配慮マニュアル」（東京都）や「光害対策ガイドライン」（環境省）を参考とする等の取組を進める。 また、環境省の光害対策ガイドラインには記載がない海鳥や希少鳥類に対する環境配慮事項について、小笠原希少鳥獣に関する連絡調整部会においてガイドライン案を作成中。